



名水のむらジッキョ、自立創造委員会（ファングル塾）（知名町）

発表者：栗尾 廣美 氏

小さく細くなる集落に元気を！

孫達の時代になお生き生きと！

I. はじめに

私は、名水のむらジッキョ、自立・創造委員会、ファングル塾、副代表栗尾廣美と申します。名水のむらは、「平成の名水100選」のこと。ジッキョは、集落名の古いことば。「小さな村おこし塾の、元気なむらづくりへの試み」をテーマに私たちの取り組みを紹介したいと思います。

○「元気をなくしつつある集落」

最近集落が小さく・細くなってきたような気がします。かつて当然であった、奉仕活動への参加も少なくなりました。

子供たちが急激に減ったことが、大きな要因のひとつ。いーたば(結い)の心も著しく低下したと感じます。ものの考え方や周囲の環境が大きく変わりました。

何とかしなければ、次の世代に、そのまた次の世代に、良好な環境・習慣を残せなくなるのでは。そのような思いから、ファングル塾の構想が生まれました。

○「島の位置・集落の概要」

県本土から500余キロ、沖永良部島の南西部に位置し、町役場とは隣り合わせの集落です。島は、周囲60キロ、面積およそ10,000ヘクタール。島は、2つの町から成り立ちます。鍾乳洞とテッポウユリが島の代名詞とされ、特に切り花の産地として知られています。

○「字の概要」

集落の人口678人・戸数307戸です。町では、大きな集落の一つです。この20年ほどで以前の6割ほどの人口に減少しました。

耕地は代々恵まれず、ほとんどが兼業農家です。病院・スーパー等、日常生活に必要な施設はほぼ整い、島でも恵まれた集落の一つであると思います。



独特の文化や習慣などが、昔ながらに息づいている集落でもあります。

○ジッキョヌホー

その一つが、集落の中心にある、ホー。命の水があるからです。平成20年環境省の「平成の名水100選」の認定を受けました。景観が優れていること、水質・水量に恵まれていることなどが理由の一つです。



字は、昔から全てに優先してホーを大事に管理してきました。当番制の清掃は、現在まで一度も欠かしません。子供たちの絶好の水遊びの場としても賑わっています。

・ホー祭り

上水道の普及で、人々との距離が遠のきはじめたホー、かつてのにぎやかさを取り戻したのは時の壮年たちでした。今年で25回を数えました。豊かな清流に設えられたステージは涼感に溢れ、近隣の人気を集め、今や、集落最大の行事に発展しています。

・ジッキョヌ獅子舞い

代表的な伝統文化財に「ジッキョヌ獅子舞い」があります。形や踊りは、全て沖縄の伝統を受け継いでいます。去年は秋田県で開催の国民文化祭に出演しました。集落の守り神として字民の信仰の対象です。

・祖先崇拜

祖先崇拜がもっとも色濃く残る集落でもあります。墓正月、盆の墓送りなど、独特の習慣を今に残します。33回忌の法要での墓送りの習慣は、今や瀬利覚のみが続ける先祖供養の行事となりました。ジッキョヌホー・ホーまつり・獅子舞い・祖先崇拜など、個性豊かな伝統文化が今に残るのが集落の大きな特徴です。

Ⅱ. 活動内容

○活動の柱(5本の矢)

組織は、集落の団体や個人で構成。総数63名です。

館の経営・やさしい市・トーギョの里プロジェクト・散策ガイド・元気環境部を5本の柱として活動、それぞれにリーダーを置いています。

○館の整備

たまり場がそもそもの発想です。全額国費の500万円に、字の基金30万を追加。平成26年3月オープンしました。一番奥に獅子の収蔵ペース、手前がたまり場です。

とりあえず、電気と水道代さえ確保できれば、最小の活動は可能となるので安心でした。活動全ての拠点です。

1. 館の経営

5本の矢のトップは館の経営です。たまり場・夏休み子ども道場・研修生受け入れ・勉強会など、自立した経営を行っています。

○たまり場

笑顔・笑い・愉快地に語らうこと。元気な字の素となること。たまり場の元気が、ファンゲル塾の活動の根っことなります。「なんと言ってもたまり場」

毎週火曜日、明るく日曜のやさしい市の準備を終えた後、三々五々、館に集合します。

たまり場の始まりです。自由に誰もが参加できます。



○夏休み子ども道場

夏休み期間中、子供会のため夏休みの宿題の手伝いをはじめました。今年、2回目を開設しました。子供は40名。ほぼ全員が参加、それぞれが宿題に向き合います。休憩を挟んで、字のおじちゃん・おばちゃんたちの仕事の話、そして、古老たちからは古い話などを聞く時間を設け、そのあとは、また宿題と向き合います。職業観も早くから身につけてほしいとの思いで毎日のように講師を交代で依頼しました。

ジッキョヌホーや獅子舞い、先祖崇拝なども、繰り返し・繰り返し伝えることにしました。

○「研修生の受け入れ」

館開設以来多くの研修生の受け入れをしました。最近では、鹿児島大学の学生さんたちです。



○「自らの勉強会」

小さな集落の小さな集団、井の中の蛙にならないよう、常に自分たちを見つめ直す機会が必要です。月に一度、講師を招聘、焼酎片手ながら新鮮な話題を聞く会を実施します。

○広報

広報も大きな柱としています。組織の目的や活動の全部が、字民に理解・協力が得られるよう広報活動に力を注いでいます。600名ほどの、限られた範囲の集落ですが、全てに浸透するのは並大抵のことではないことを痛感させられます。

2. 「やさい市」

2本目の矢はやさい市です。島中どこの集落も、やさい市が並ぶのに、なぜ瀬利覚にはできないのだろう？と、素朴な、疑問がきっかけです。農業に弱い瀬利覚には、頼りない・不安の多い中でのスタートでした。瀬利覚は、野菜や花卉の栽培は盛んとは言えません。大方の農家が、自家用の野菜が主で販売に出すことはありませんでした。



自家用と隣近所へのお裾分けをした後の出品です。その日朝一番の採れたてに、量・価格の安さが好評です。最近では包装もしっかり見栄えもついてきました。

やさい市には、男たちの手伝いも欠かせません。前日のテント張りや看板の立て替えは男性陣の役割です。やさい市は、農家のおばちゃんたちにもこれまでにない励みとなり、字が元気になるのに一役果たすなど、一定の効果を果たすようになりました。野菜作りの勉強会へも進んで参加するようになりました。

3. 「トーギョの里プロジェクト」

3本目の矢は絶滅危惧種トーギョの保護・増殖活動です。平成25年12月に活動を開始しました。かつて、島の田んぼどこにも住んでいたトーギョ。飼育もさほど困難ではありません。自然界で絶滅したのは単に田んぼがなくなったことと、農薬です。飼育条件の整うジッキョヌホー水系は、活動を行うには最適の環境にありました。

トーギョは、国内には沖縄本島の一部と伊是名島、そして沖永良部島にしか棲息しない貴

重種で絶滅危惧種の1種に指定されています。

ファングル塾では、昨年1月にピオトープを造成、3月放流、増殖活動に着手しました。今年5月、島の小学校2校と歴史民俗資料館に観察・増殖用として、合わせて90匹を贈呈しました。

かつて、ジッキョヌホーの下流は見渡す限り水田でした。ドジョウ・ウナギ・エビが豊富で、それが子供たちの遊び相手でした。いまは、かえるの鳴き声さえ聞かれなくなった周辺の環境です。豊かな水流の近くに住みながら、水生動物との接触は、水槽を隔てなければならぬのが現実です。

ファングル塾の活動が、絶滅危惧種の保護のみならず、水生動物達と子供たちが生き生きと目を輝かして交流できるような環境づくりの一環となればとの思いからです。

4. 「ジッキョ丸ごと散策ツアー」

これまで誰もが見えなかった、地域の素材を紹介する観光ガイド事業を手掛けてみました。短期に効果を期待してのことではなく、パイロット事業として、うまくいけば地域興しの新たな手立てがみえるのでは、との挑戦です。



平成26年3月、獅子の収蔵庫・名水ジッキョヌホー・トーギヨの里の3本柱が整ったのを機

に、およそ40分の散策コースを設定、公開することにしました。わずかですが実績がありました。平成27年夏、すでに前年の総数を上回りました。航空機内のパンフレット、観光連盟・バス企業等、関連機関との提携による効果でした。

集落の何でもないと思われる資源が、遠くから来島の観光客には興味があるということを知ってもらえました。ガイド役は、集落の中で誰もが可能なことです。いずれ、沿線には、茶飲み場・土産売店などが設置されると楽しい夢を見えています。

5. 「元気・環境部」

ファングル塾は、字の既成の団体の活動範囲とは競合しません。誰もが見えなかった字のボランティア活動に、ファングル塾の出番があるのです。

子供たちが水に入らない11月以降、青のりが繁茂し、それは大変な状況となります。と



でも名水の面目は保てません。なんとかしよう。これが、発想です。

元気・環境部は、こうして生まれました。ジッキョヌホーの環境保全が主な活動場所です。登録人員は21名、昨年10月末より活動を開始しました。



月に2回ほど、元気・環境部のメンバーが青のりの清掃作業を続けています。春先になり、子供たちがホーに戻って来るまで続けることとなります。

○「直営農場」

27年、初めてやさい栽培に活動範囲を広げることになりました。目的は、やさい市の応援です。共に汗する喜びは何物にも代えられない充実感が生まれます。

Ⅲ. 結びに

以上、5本の矢を紹介しました。活動を始めて2年が経過、たまり場からのスタートはいま5本になりました。まとめとして、活動資金とこれからの目標の説明を加えたいと思います。

○基金箱

活動には、それなりに資金が伴います。それらの資金は、館の利用者の善意が主なものです。館に設置の基金箱が資金源です。人々が、思い思いに基金を投入します。館の光熱費が捻出できれば経営としてはとりあえず十分です。

「集落等からの助成を一切求めない。」という自立姿勢が組織をここまで成長させたと思います。知恵や工夫を重ねること。そして、ひたむきな努力はまわりの共感・賛同を巻き込むことなど、基金箱は善意の玉手箱です。

○行動指針

ファングル塾では、できることを、できるときに、できる人がする。

これをモットーとしています。メンバーは誰も強制もしませんし、自由に活動することになっています。

○「むすびおわり」

字を元気にすること。孫たちの時代にもなお住みやすい集落を。ファングル塾の活動理念です。いずれ活動が字に浸透し、充実すれば、それは福祉に繋がることになる。私たちの活動は、全て福祉の入口だとも考えています。

以上で、私たちが取り組む、小さなむらおこしの塾の元気な字づくりの紹介を終わります

